

Injury Alert (傷害速報)類似事例

金属片を内蔵した加熱式タバコの誤飲 (No.121 金属片を内蔵した加熱式タバコの誤飲による消化管異物 8)

事例	基本情報	年齢：0歳 9か月 性別：男児 体重：10.3kg 身長：70cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	特記すべき事項なし
臨床診断名		タバコ誤飲、異物誤飲（金属片）
医療費		入院 151,120円
原因対象	対象名称	加熱式タバコ、金属片内蔵タバコスティック
	入手経路 使用状況	両親が日常的に加熱式タバコスティックを使用している。普段は本児の手の届かない高さに置いて保管している。
発生状況	発生場所	自宅の寝室
	周囲の人 周囲の環境	本児は両親とともに寝室で就寝していた。父のズボンのポケットに加熱式タバコスティックが入った箱が開封された状態で入ったままだった。
	発生年月日	2022年9月X日(日) 午前6時頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	午前6時頃に父が物音で起床したところ、本児が加熱式タバコスティックを誤飲していた。本児の近くに少量のタバコスティック紙を伴う嘔吐痕あり。父は、本児が誤飲していると思い、口腔内からタバコを取り出そうと試みたが、困難であった。その際に、父は加熱式タバコに内蔵されている金属片が無くなっていることに気がついてしたが、金属片を誤飲している可能性は低いと判断し、自宅で様子を見ていた。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>同日午後 8 時頃までに金属片が自宅で見つからなかったことから、金属片を誤飲している可能性を心配し、父・母・本児で医療機関を受診した。異物誤飲を疑い、胸腹部 X 線写真を撮影したところ、腸管内に金属片を疑う 3mm×8mm 大の X 線非透過性異物を認めた。本児の全身状態は良好であったが、金属片の形状から腸管損傷のリスクがあると判断し、経過観察入院とした。ニコチン中毒については誤飲から 12 時間以上経過していること、血液検査で特記すべき異常所見を認めなかったことから否定的と判断した。X+1 日に便とともに金属片が排泄された。嘔吐や腹痛、血便等の明らかな異常所見を認めず、X+2 日に再発予防教育を母親に行ったうえで退院とした。</p>
<p>キーワード</p>	<p>加熱式タバコ、異物誤飲(金属片)、消化管内異物</p>

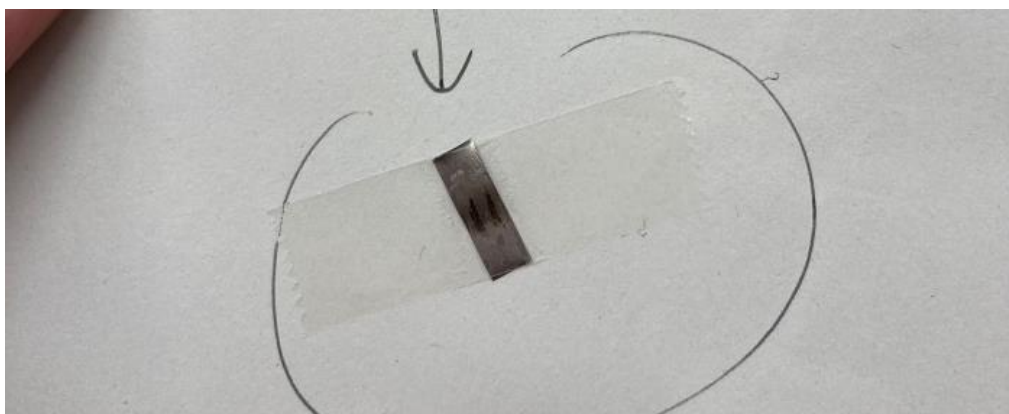


図 1. 誤飲した金属片

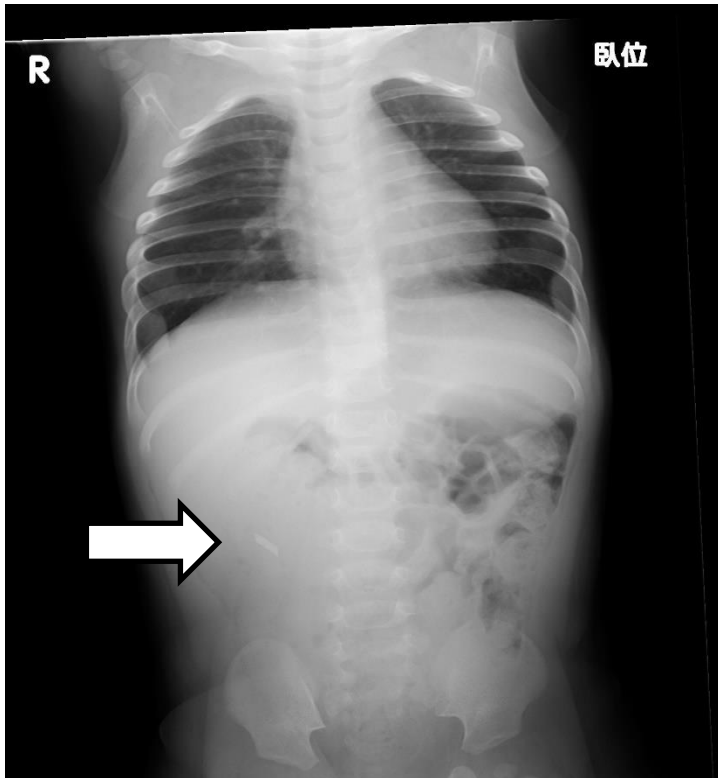


図 2. 入院時胸腹部 X 線画像

腸管内に 3mm×8mm 大の異物を疑う異常陰影あり

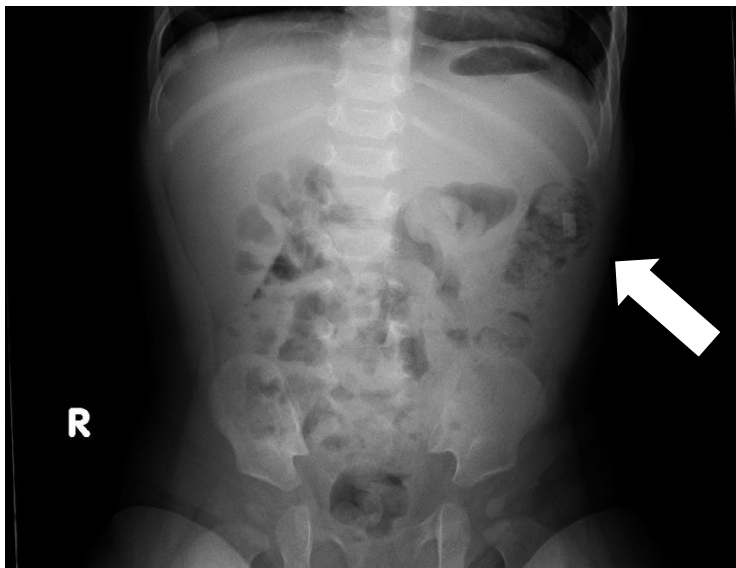


図 3. 入院 2 日目での胸腹部 X 線画像

腸管内に異物を疑う異常陰影を認める。腸管内を肛門側へ向けて移動している。この後、便中に異物は排泄された。